

目的

市民からまちづくりに対する意見や提案をいただき、各種施策の推進の参考にするとともに、市民が市政を身近に感じ、まちづくりに参加する市民を増やす。

日程

令和6年11月10日（日）

参加者

鶴岡市民 7名（8名申込）
市：市長、健康福祉部長、建設部長、教育部長、
政策企画課主幹、子育て推進課長

テーマ

子どもの遊び場のあり方について



対話集会の様子

参加者の主な意見（順不同）

- 使わなくなった公共施設を、こども達の居場所や遊び場に活用してもいいのではないか。
- 冬に雪が降ると外で遊ぶ場所が少なくなる。
- 親子モニターでキッズドームソライが無償で利用できたが、有料だと高すぎて行けない。
- 駅前の「まんまルーム」やにこ♥ふるの「なかよし広場」は未就園児しか利用できない。
- 郊外地や地域には遊び場が少なく、市外の魅力的な遊び場に行ってしまう。
- 「親子で遊べる」ということが大事で、ソライは大人が入れない所があり利用しづらい。
- 土曜日も仕事をしているので、日曜日に開いている施設があるとありがたい。
- 子どもの遊び場に良いと思う広場や施設があっても、他の利用者や行政の理解がなく使えない場合がある。
- 猛暑の影響で夏は外で遊びにくく、室内で遊べる空間の需要は増えていくのではないか。
- 障害があるこどもの施設利用料が安くなるのはいいが、それだけでは安心して利用できない。
他のこどもと一緒に遊べないことがあるので、例えば年に数回、プールを障害のあるこども達だけに開放するというようなことがあってもいいのではないか。